

V 業務実績報告

1 機構全体

【平成 22 年度の長野県立病院機構業務運営目標】

「最適な医療が提供できる病院づくりを目指して、知恵を出し合い、創造力を発揮する」

【総 括】

平成 22 年度の県内医療を取り巻く環境は、長期的な人口減少傾向に加え、平成 21 年度まで猛威を振るったインフルエンザが下火になったことなどから、県内の医療機関では総じて受診者数の減少傾向が見られました。

このような中、地方独立行政法人として新たなスタートを切った長野県立病院機構は、その初年度である平成 22 年度を「地方独立行政法人への円滑な移行」の年として、地方独立行政法人制度の利点を十分に生かしながら、これまでの行政組織としての枠や発想にとらわれず、医療提供機関として必要な組織・体制・制度の構築と定着を行うべく、業務運営目標を定め、PDCAサイクルの手法を導入し、職員それぞれが意識を高めながら一丸となって取り組んでまいりました。

前年度と比較した各県立病院の状況は、内科、産婦人科での医師の増員や、内視鏡センターを開設した須坂病院では、入院・外来ともに患者数が増加するとともに、職員体制の強化等により急性期看護補助体制加算などを取得し、新たな医療サービスを提供することができました。

こころの医療センター駒ヶ根では、新病院オープンに伴う規模の縮小により入院患者は減少しましたが、急性期医療やより専門性の高い医療への転換により外来患者が増加するとともに、精神科救急入院料 1 などを取得し、新たな医療サービスを提供することができました。

阿南病院及び木曽病院では、医療圏人口の減少（阿南病院では平成 22 年 3 月より精神科病棟が休止）及び高齢化の進行により、入院・外来ともに患者数は減少しましたが、高齢化による地域のニーズに対応し、訪問診療や訪問リハビリを強化するとともに、給食業務等の外部委託などによる経費の節減に努めました。

こども病院では、周辺地域及び県内の産科・小児科体制が充実したことにより入院・外来ともに患者数は減少しましたが、医師事務作業補助体制加算、急性期看護補助体制加算などの施設基準を取得するなど増収に取り組むとともに、経費の節減や補助金収入の獲得を行いました。

以上のことから、各県立病院の経常損益は、5 病院が初めてそろって黒字を達成するとともに、県立病院機構全体では、年度計画（8,936 万円の赤字）を上回る 6 億 278 万円の黒字とすることができました。

なお、当期純損益で見ると、旧病棟の除却に伴う臨時経費を計上したこころの医療センター駒ヶ根では純損失となりましたが、県立病院機構全体では、3 億 9,903 万円の黒字とすることができました。

以下、平成 22 年度における県立病院機構本部事務局の実施事項を中心に、県立病院機構共通の取組みについて記載します。（各県立病院の状況については「2 県立病院及び介護老人保健施設」のとおりです。）

（地方独立行政法人への円滑な移行）

中期目標において地方独立行政法人化の目的は、「県立病院が地域医療や高度・専門医療など、県民の皆様により安心して質の高い医療サービスを安定的に提供していくため」と示されており、県立病院機構には、地方独立行政法人への円滑な移行を達成するのみならず、当制度のメリットを最大限に生かし、病院現場の実態に即したスピーディで効率的な病院経営を行い、信頼・連帯・技術・人材などの形のない知的・人的資産を増やしながら医療サービスを提供していくことが求められています。

そのため、県立病院機構本部としては、独立法人化初年度として、以下の業務運営目標を定め、主役である各県立病院・介護老人保健施設の経営を支援するため、各種制度の整備と経営の新たなシステムの構築に取り組みました。

「独立行政法人の利点や個々の資産・特長を活かした病院づくりの支援」

「医療人を育む研修体制の構築」

「医療政策を担う立場を認識し、県との調整を行う」

（地方独立行政法人制度の活用）

人事・採用面については、行政機関の一組織としての職員定数などの制約がなくなったため、随時採用制度の導入を図り年度途中での職員の採用・強化ができるようになり医療サービスの充実につながりました。看護師採用については、随時採用制度とともに、独自の修学資金貸与制度の導入やテレビCMの活用など広報の充実を図ることにより、採用活動の強化を図っています。

また、育児短時間勤務制度や看護師の二交代制勤務など多様な勤務形態を導入することにより、職員にとっても魅力ある病院であるような環境づくりにも取り組みました。

なお、これまで専門性に欠けるところのあった病院の事務部門の組織体制や、医事事務委託の実態を見直すとともに、事務職員のプロパー化を進めることとし、今後5年間の基本方針と年度計画を策定し、取組を開始しました。

人材の育成については、重要項目として取組に着手しました。4月には研修センターを設置して、研修体制の構築を目指し、県立病院時代では実施されていなかった職員の課程別研修の実施、スキルラボ（シミュレーション教育施設）の設置など、医療に必要な実践的な技能を習得できる環境の整備に取り組んでいます。

制度面においても、職員が大学院等で学ぶことができるようにするなどスキルアップを支援するために、自己啓発等休業制度や修学部分休業制度を創設しました。

地方独立行政法人化により、弾力的な運用が可能となった会計制度については、投資的経費等の執行における年度間調整を認める制度の構築や、医療技術職員等による「医療器械等審査部会」の設置、医薬品一括購入契約について客観的なデータを活用した見直し交渉の実施などを通じ、予算の効率的な執行と経費削減に取り組みました。

また、平成23年度の予算編成については、各病院が責任を持って独自に予算原案が作成できる新たな仕組みを導入し、取組を開始しました。

以上の取組も含め、中期計画・年度計画の達成に向けて、5つの県立病院と機構本部事務局では、それぞれ業務運営目標と行動計画（アクションプラン）を定め、PDCAサイクルやバランススコアカードの手法によって計画的に業務改善に取り組みました。

県立病院機構全体では、11月までに上半期評価を行い、12月に監事監査を受けるとともに、評価結果を下半期の業務執行や、平成23年度の年度計画や予算編成に活かすことができました。

（電子カルテの整備・病院改築）

電子カルテ整備の推進は、安全・安心な医療の提供、効率的な病院経営に資するものであることから、情報化推進プロジェクトチームでの議論を通じて県立病院機構全体で統一感のとれた整備を進めることとし、各県立病院の整備について必要な助言等の支援を行いました。

病院の改築・整備については、中期計画に従い平成 21 年度に引き続き、こころの医療センター駒ヶ根と阿南病院において事業を進めました。

こころの医療センター駒ヶ根整備事業については、平成 22 年 2 月のクレーン転倒事故の影響により、本館棟の竣工は計画より約 1 ヶ月遅れたものの、平成 23 年 1 月 24 日から新本館棟での診療を開始することができました。引き続きデイケア棟・体育館・外構の第 2 期工事を進め、平成 23 年度中の完了を目指すこととしています。

阿南病院耐震化事業については、平成 23 年 1 月に実施設計を完了し、年度内に発注することができました。

(今後取り組むべき事項)

人事・人材育成や経営改善の取組と合わせて、依然厳しい状況にある看護師確保に向けて一層の対策の充実に取り組むとともに、薬剤師や管理栄養士など医療技術職員や事務職員のプロパライゼーションの推進や、職員が意欲的に業務に取り組めるよう人事評価制度等の見直しを進め、病院の人的・知的資産の有効活用による医療提供体制の強化を図る必要があります。

そして、県の医療政策を支える公的使命を担う病院として、医事事務の直営化、診療情報管理士や電子カルテシステムの配備などの成果を十分に活用しながら、今後は、地域の医療ニーズにより迅速・的確に、かつ、戦略的・効果的に対応してまいりたいと考えています。

また、県立病院間の連携のみならず、地域医療機関との連携を拡大・強化しながら、名実ともに長野県立病院機構のブランド力を高めてまいります。

加えて、医療を取り巻く社会経済情勢や人口動態・疾病構造などの変化に対応するため、適時適切に県立病院のあり方や、進むべき方向性を見据えることができるように、投資計画を含めた長期ビジョンの策定について、検討を行ってまいります。

【業務実績】

(ア) 患者数及び医業収益

平成22年度 患者数、診療単価、医業収益 実績表 (対22年度目標)

病院名	区分	延患者数(人)				1人1日当たり診療単価(円)				医業収益(千円)【税抜き】			
		22年度実績	22年度目標	対目標		22年度実績	22年度目標	対目標		22年度実績	22年度目標	対目標	
				人数	比率			金額	比率			金額	比率
須坂病院	入院	87,606	92,460	▲ 4,854	94.8	40,070	36,188	3,882	110.7	3,510,351	3,345,938	164,413	104.9
	外来	138,254	152,695	▲ 14,441	90.5	9,515	8,595	920	110.7	1,315,445	1,312,443	3,002	100.2
	計	225,860	245,155	▲ 19,295	92.1	—				4,825,796	4,658,381	167,415	103.6
	コメント	○ 患者数は、H22年9月以降、看護師不足により南7階病棟(58床)を閉鎖した影響やDPC導入に伴う平均在院日数の短縮並びに季節性疾患の減少等により、入院・外来ともに目標値を下回った。 ○ 単価は、DPC導入(H21年7月)以降の平均在院日数の短縮及び新規加算算定により、目標値を上回った。 ○ 医業収益は、外来患者数及び単価の伸びが寄与して、合計で目標値を3.6%上回った。											
駒ヶ根こころの医療センター	入院	38,108	38,300	▲ 192	99.5	17,380	17,513	▲ 133	99.2	662,307	670,740	▲ 8,433	98.7
	外来	30,882	28,900	1,982	106.9	10,944	9,929	1,015	110.2	337,988	286,934	51,054	117.8
	計	68,990	67,200	1,790	102.7	—				1,000,295	957,674	42,621	104.5
	コメント	○ 患者数は、入院では目標値並み、外来では新病院移行に伴う退院促進により入院患者が外来へ切り替えたことにより目標値を上回った。 ○ 単価は、入院では、精神科救急入院料Ⅰの算定がクレーン事故により2カ月遅れたが、別に新たな加算を取得したことからほぼ目標どおりとなった。外来は、新病棟開棟による新規患者の増に伴う各種検査実施により、目標値を10%超上回った。 ○ 医業収益は、患者数も単価も目標を上回っていることから、合計で目標値を4.4%上回った。											
阿南病院	入院	20,919	23,391	▲ 2,472	89.4	25,434	24,962	472	101.9	532,051	583,895	▲ 51,844	91.1
	外来	58,867	62,030	▲ 3,163	94.9	9,637	9,420	217	102.3	567,299	584,248	▲ 16,949	97.1
	計	79,786	85,421	▲ 5,635	93.4	—				1,099,350	1,168,143	▲ 68,793	94.1
	コメント	○ 患者数は、診療圏の人口減もあり、入院では10.6%、外来では5.1%の減少となった。 ○ 単価は、診療報酬改定の影響もあり、入院・外来とも目標を上回った。 ○ 医業収益は、単価は伸びたものの、患者数の減少による影響が大きく、合計で目標値を5.9%下回った。											
木曽病院	入院	65,924	75,000	▲ 9,076	87.9	32,027	29,261	2,766	109.5	2,111,327	2,194,579	▲ 83,252	96.2
	外来	140,149	142,000	▲ 1,851	98.7	9,386	8,736	650	107.4	1,315,506	1,240,555	74,951	106.0
	計	206,073	217,000	▲ 10,927	95.0	—				3,426,833	3,435,134	▲ 8,301	99.8
	コメント	○ 患者数は、入院では診療圏の人口減やDPC導入に伴う平均在院日数の短縮により12.1%減少し、外来では目標をやや下回った。 ○ 単価は、DPC導入(H22年4月)以降の平均在院日数の短縮及び新規加算算定により、目標値を上回った。 ○ 医業収益は、入院では患者数減により目標値を下回ったが、外来では単価増により目標値を上回り、全体では目標値並みとなった。											
こども病院	入院	49,073	52,007	▲ 2,934	94.4	82,875	82,141	734	100.9	4,066,940	4,271,888	▲ 204,948	95.2
	外来	51,024	53,621	▲ 2,597	95.2	13,538	10,512	3,026	128.8	690,772	563,653	127,119	122.6
	計	100,097	105,628	▲ 5,531	94.8	—				4,757,712	4,835,541	▲ 77,829	98.4
	コメント	○ 患者数は、総合診療科の医師数減(2名)及び平均在院日数の短縮等により、入院で5.6%、外来で4.8%の減少となった。 ○ 単価は、入院では目標値並み、外来では、自己注射(成長ホルモン)を院外処方から院内処方に切り替える等して30%弱伸びた。 ○ 医業収益は、入院で患者数が目標値を下回ったことにより大きく減収となったことから、外来で患者減でも単価増により目標値を上回ったが合計で 目標を78万円下回った。											
5病院計	入院	261,630	281,158	▲ 19,528	93.1	—				10,882,976	11,067,040	▲ 184,064	98.3
	外来	419,176	439,246	▲ 20,070	95.4					4,227,010	3,987,833	239,177	106.0
	計	680,806	720,404	▲ 39,598	94.5					15,109,986	15,054,873	55,113	100.4

平成22年度 患者数、診療単価、医業収益 実績表 (対21年度実績)

病院名	区分	延患者数(人)				1人1日当たり診療単価(円)				医業収益(千円)【税抜き】			
		22年度 実 績	21年度 実 績	対21年度		22年度 実 績	21年度 実 績	対21年度		22年度 実 績	21年度 実 績	対21年度	
				人数	比率			金額	比率			金額	比率
須坂病院	入院	87,606	86,052	1,554	101.8	40,070	35,810	4,260	111.9	3,510,351	3,081,503	428,848	113.9
	外来	138,254	128,406	9,848	107.7	9,515	9,654	▲ 139	98.6	1,315,445	1,239,608	75,837	106.1
	計	225,860	214,458	11,402	105.3	—				4,825,796	4,321,111	504,685	111.7
	コメント	○ 対前年では、患者数、単価(外来除く)、医業収益において実績を上回っており、医業収益で、505百万円増加となっている。											
こころの医療センター 根ヶ崎	入院	38,108	45,643	▲ 7,535	83.5	17,380	15,288	2,092	113.7	662,307	697,801	▲ 35,494	94.9
	外来	30,882	28,471	2,411	108.5	10,944	10,718	226	102.1	337,988	305,142	32,846	110.8
	計	68,990	74,114	▲ 5,124	93.1	—				1,000,295	1,002,943	▲ 2,648	99.7
	コメント	○ 対前年では、退院促進により入院患者数が16.5%減少しているものの、外来患者数及び単価の伸びにより、前年度並みの収益を確保している。											
阿南病院	入院	20,919	26,233	▲ 5,314	79.7	25,434	23,267	2,167	109.3	532,051	610,376	▲ 78,325	87.2
	外来	58,867	63,365	▲ 4,498	92.9	9,637	9,064	573	106.3	567,299	574,334	▲ 7,035	98.8
	計	79,786	89,598	▲ 9,812	89.0	—				1,099,350	1,184,710	▲ 85,360	92.8
	コメント	○ 対前年では、単価は伸びているものの、精神科病棟の休止の影響もあり患者数が大幅に減少しているため、医業収益が大幅に減少している。											
木曽病院	入院	65,924	76,437	▲ 10,513	86.2	32,027	28,972	3,055	110.5	2,111,327	2,214,505	▲ 103,178	95.3
	外来	140,149	141,170	▲ 1,021	99.3	9,386	8,961	425	104.7	1,315,506	1,265,053	50,453	104.0
	計	206,073	217,607	▲ 11,534	94.7	—				3,426,833	3,479,558	▲ 52,725	98.5
	コメント	○ 対前年では、単価は大幅に上回っているものの入院患者数の減少影響が大きく、医業収益で、約53百万円の減少となっている。											
こども病院	入院	49,073	49,430	▲ 357	99.3	82,875	83,654	▲ 779	99.1	4,066,940	4,135,034	▲ 68,094	98.4
	外来	51,024	52,475	▲ 1,451	97.2	13,538	12,665	873	106.9	690,772	664,621	26,151	103.9
	計	100,097	101,905	▲ 1,808	98.2	—				4,757,712	4,799,655	▲ 41,943	99.1
	コメント	○ 対前年では、高難度の手術件数の減少等により入院単価が下がり、医業収益全体では42百万円の減。											
5病院計	入院	261,630	283,795	▲ 22,165	92.2	—				10,882,976	10,739,219	143,757	101.3
	外来	419,176	413,887	5,289	101.3					4,227,010	4,048,758	178,252	104.4
	計	680,806	697,682	▲ 16,876	97.6					15,109,986	14,787,977	322,009	102.2

(イ) 収支状況

長野県立病院機構 収支状況 (対目標:決算)

(収益的収支)

(単位:千円)

項 目		平成22年度 実績 (a)	平成22年度 計画 (b)	分 析 等		
				実績一計画 (a)-(b)	達成率 (a)/(b)×100	備考
営業 損益	医業収益	15,459,430	15,396,346	63,084	100.41	
	入院収益	10,882,976	11,067,040	▲ 184,064	98.34	
	外来収益	4,227,010	3,987,833	239,177	106.00	
	その他の医業収益	381,482	341,473	40,009	111.72	
	医業その他営業収益	4,634,453	4,571,579	62,874	101.38	
	介護老人保健施設収益	465,380	489,995	▲ 24,615	94.98	
	一般管理費収益	144,202	98,876	45,326	145.84	
	営業収益 a	20,703,465	20,556,796	146,669	100.71	
	医業費用	19,168,747	19,550,519	▲ 381,772	98.05	
	給与費	10,032,984	10,152,558	▲ 119,574	98.82	
	材料費	4,116,472	4,198,980	▲ 82,508	98.04	
	経費	2,859,043	3,133,585	▲ 274,542	91.24	
	減価償却費	2,072,217	1,991,633	80,584	104.05	
	研究研修費	72,069	70,714	1,355	101.92	
	介護老人保健施設費用	450,164	521,692	▲ 71,528	86.29	
営業外 損益	一般管理費費用	284,138	334,397	▲ 50,259	84.97	
	営業費用 b	19,903,049	20,406,608	▲ 503,559	97.53	
	営業損益 a-b	800,416	150,188	650,228	-	
	医業営業外収益	815,449	743,769	71,680	109.64	
	介護老人保健施設収益	55,962	55,936	26	100.05	
	一般管理費収益	4,213	31,200	▲ 26,987	13.50	
	営業外収益	875,624	830,905	44,719	105.38	
	医業営業外費用	1,006,225	1,006,595	▲ 370	99.96	
	介護老人保健施設営業外費用	64,860	61,310	3,550	105.79	
	一般管理費営業外費用	2,173	2,550	▲ 377	85.22	
	営業外費用	1,073,258	1,070,455	2,803	100.26	
	経常収益 計	602,782	▲ 89,362	692,144	-	
	臨時利益	2,483	558	1,925	445.0	
	臨時損失	206,227	191,943	14,284	107.4	
	純 損 益	399,038	▲ 280,747	679,785	-	

(資本的収支)

(単位:千円)

項 目		平成22年度 実績 (a)	平成22年度 計画 (b)	分 析 等		
				実績一計画 (a)-(b)	達成率 (a)/(b)×100	備考
収入	長期借入金	3,180,200	3,814,230	▲ 634,030	83.38	
	その他収入	352,269	340,480	11,789	103.46	
	計	3,532,469	4,154,710	▲ 622,241	85.02	
支出	建設改良費	3,536,331	4,155,989	▲ 619,658	85.09	
	うち こころの医療C改築工事	2,427,462	2,646,005	▲ 218,543	91.74	
	うち 阿南病院耐震化工事	58,132	58,912	▲ 780	98.68	
	うち 医療器械	795,911	1,110,641	▲ 314,730	71.66	
	貸付金	21,900	30,600	▲ 8,700	71.57	
	移行前償還債務償還金	2,151,327	2,151,342	▲ 15	100.00	
	計	5,709,558	6,337,931	▲ 628,373	90.09	

(ウ) 主要経営指標

長野県立病院機構 主要指標 (対目標・対実績)

(単位: %, 日)

項 目			平成22年度 実 績 (a)	平成22年度 計 画 (b)	平成21年度 実 績 (c)	分 析 等		
						実績ー計画 (a)ー(b)	22ー21 (a)ー(c)	備 考
医 業 収 益 指 標	病 床 利 用 率	須坂病院	73.0	77.0	72.4	-4.0	0.6	結核病床(24床)除き H22.9～南7階病棟(58床)休止
		こころの医療センター駒ヶ根	※ 66.7	※ 80.0	53.2	-13.3	13.5	(※)H23.1～新病棟移行後の数 値(181床(運用)→129床)
		阿南病院	61.6	68.0	※ 63.7	-6.4	-2.1	(※)H22.3～休止中の精神病床 (46床)分を除く
		木曽病院	69.7	79.3	80.9	-9.6	-11.2	H22.4～DPC導入
		こども病院	82.5	86.3	83.1	-3.8	-0.6	運用病床数(163床)に基づき算出
	平 均 在 院 日 数	須坂病院	14.4	-	16.6		-2.2	一般病床
			81.6	-	89.9		-8.3	結核病床
			14.9	-	17.1		-2.2	一般・結核
		こころの医療センター駒ヶ根	78.2	-	98.4		-20.2	
		阿南病院	17.2	21.0	※ 17.5	-3.8	-0.3	(※)H22.3～休止中の精神病床 (46床)分を除く
		木曽病院	14.9	-	16.0		-1.1	一般病床
			115.0	-	105.3		9.7	療養病床
			19.4	-	20.5		-1.1	一般・療養込み
		こども病院	16.6	16.0	16.7	0.6	-0.1	
収 支 指 標	経常収支比率		102.9	99.6	100.1	3.3	2.8	21年度は、地方独立行政法人会 計基準に修正した数値で記載
	医 業 収 支 比 率	須坂病院	87.7	83.3	82.0	4.4	5.7	21年度は、地方独立行政法人会 計基準に修正した数値で記載
		こころの医療センター駒ヶ根	60.8	53.5	67.6	7.2	-6.8	
		阿南病院	70.7	74.2	67.4	-3.5	3.3	
		木曽病院	89.2	88.0	87.7	1.2	1.6	
		こども病院	76.6	74.3	76.6	2.3	0.0	
医 業 費 用 構 造 指 標	職 員 給 与 比 率	須坂病院	59.7	62.4	64.0	-2.6	-4.2	対前年度比には、汽缶業務等の 外部委託による影響分△2.5ポイ ント含む(新病棟開設に伴う人件 費増により比率は悪化)
		こころの医療センター駒ヶ根	107.8	120.7	101.5	-13.0	6.3	
		阿南病院	71.7	70.8	83.9	0.9	-12.2	
		木曽病院	54.8	53.5	57.9	1.3	-3.0	
		こども病院	67.1	66.3	64.5	0.8	2.6	
	医 療 材 料 費 比 率	須坂病院	23.5	25.0	24.8	-1.5	-1.3	対前年度比には、給食業務等の 外部委託による影響分△0.7ポイ ント含む
		こころの医療センター駒ヶ根	20.4	19.2	20.4	1.2	0.0	
		阿南病院	31.3	30.5	31.2	0.8	0.1	
		木曽病院	25.6	26.3	25.7	-0.7	-0.1	
		こども病院	26.7	28.0	28.3	-1.3	-1.6	

22年度計画値は、年間の計画値を記載

【主要指標の算定方式】

- 病床利用率 $\text{年間延入院患者数} \div \text{年間延病床数} \times 100$
- 平均在院日数 $\text{在院患者延日数} \div \{(\text{新入院患者} + \text{新退院患者数}) \div 2\}$
- 経常収支比率 $\text{経常収益} \div \text{経常費用} \times 100$
- 医業収支比率 $\text{医業収益} \div \text{医業費用} \times 100$
- 職員給与比率 $\text{職員給与費} \div \text{医業収益} \times 100$
- 医療材料費比率 $\text{医療材料費(薬品費} + \text{診療材料費)} \div \text{医業収益} \times 100$

* 経常収支は機構全体、他は病院別に記載

【特記事項】

（ア）地域医療、高度・専門医療の提供

- ・ 地域の中核病院として、地域の医療需要に応じて診療機能の充実が進みました。
(須坂・阿南・木曽病院)
- ・ 県の医療政策を担う機関として、高度専門医療の充実を図りました。
(こころの医療センター駒ヶ根・こども病院)
- ・ 東日本大震災や長野県北部地震に際しては、医療救護班や心のケアチームの派遣を行うなど、5つの県立病院は災害時の医療活動に迅速に対応しました。

（イ）5病院のネットワークを活用した医療の提供及び地域医療への貢献

- ・ 各県立病院間で医師の相互派遣ができるような県立病院間診療応援手当などの制度整備を行うとともに、他の医療機関からの要請に応じて県立病院の医師等を派遣する際の処遇改善等を行いました。
- ・ 5つの県立病院と信州大学付属病院を結び、診療情報や手術映像の配信・カンファレンスや研修ができる県立病院間高画質診療支援ネットワークシステムの運用を、8月から本格的に開始し診療機能の向上を図りました。
- ・ 研修センターが実施する研修に他の医療機関の職員を受け入れ、地域医療機関の医療技術の向上を支援しました。

（ウ）安全・安心な医療の提供

- ・ 県立病院機構統一の医療安全管理基本指針を策定し、医療安全対策の強化に努めました。
- ・ 看護師確保対策を充実し、看護職員の増員に取り組みました。
 - 看護学生に対する修学資金貸与制度の創設（平成22年度貸与決定者77名）
 - 随時採用制度の導入（医師11名・看護師及び助産師15名・薬剤師6名・診療情報管理士1名・事務職1名採用）
 - 看護師募集のためのホームページの開設（4月）
 - 看護師等養成学校への訪問活動や広報周知活動の強化（4月～）
 - 多様な勤務形態として二交代制勤務を導入（10月）
- ・ 個人情報の適正な管理体制を構築し、個人情報の漏えい防止に努めました。
 - 個人情報関係規程の策定等関係規程の整備
 - 情報セキュリティポリシー基本方針及び対策基準の策定

（エ）人材の育成・確保

- ・ 研修センターを設置し、職員の研修環境の整備に努めました。（4月）
- ・ 研修センター主催による課程別職種別の職員研修を実施しました。
- ・ 研修センターにスキルスラボ（シミュレーション教育施設）を設置（11月）し、医療に必要な実践的な技能を習得できる環境を整備しました。
- ・ 職員が大学院等で学ぶことができるように、自己啓発等休業制度や修学部分休業制度を創設しました。（4月）
- ・ 育児と仕事の両立が可能となるよう、育児短時間勤務制度を創設しました。（4月）
- ・ 医療クランク（医師事務作業補助者）を積極的に採用し、医師等の負担の軽減を図りました。（須坂6名・阿南1名・こども7名 合計13名採用）

（オ）医療に関する調査研究

- ・ 病院の治験を支援するため、治験研究受託収入及び奨学寄附金収入を当該県立病院の研究活動費に充てるための運用ルールを策定しました。（7月）

(カ) 業務運営の改善・効率化

- ・ P D C Aサイクルに基づく計画的な業務執行方法の導入
中期計画・年度計画の達成に向けて、5つの県立病院と機構本部事務局では業務運営目標と行動計画（アクションプラン）を定め、P D C Aサイクルやバランススコアカードの手法によって計画的に業務改善に取り組みました。
- ・ 柔軟な組織・人事運営
随時採用制度を導入し、年度途中における職員確保を速やかに行いました。
- ・ 人事評価制度に係る苦情処理制度を創設し、人事評価について対象職員の意見表明の場及び客観性を確保しました。
- ・ 多様な勤務形態を導入し、職員が働きやすい環境を整備しました。
(育児短時間勤務制度の創設等)
- ・ 病院長へ職員採用権限の一部を付与するとともに（有期雇用職員の採用）、予算執行上の権限を委任し（予算執行・契約締結等）、柔軟かつ迅速な業務執行に努めました。
- ・ 最新の経営指標を定期的に理事会に報告し、役員が経営状況を把握できるような体制を構築しました。
- ・ 会計制度の運用を弾力化し、緊急の支払いに対応する「小口現金制度」の運用、投資的経費等の執行における年度間調整を認める制度の構築をしました。
- ・ 経費削減を推進し、財務状況の改善に努めました。
 - 医療技術職員等による「医療器械等審査部会」を設置し、効率的な医療機器購入体制を整備（7月）
 - 機構本部が行う医薬品一括購入契約について、他の医療機関のデータ等を参考に見直し交渉を実施し、値引き率を拡大（8月）